



サビエルが見た日本

人はだれしも老いる。若いと思っていた妻も新聞を読むのに老眼鏡がいるようになった。

（うこう）の妻。我々庶民には別荘は無理、それが鈴虫ですむとは有り難い話である。

その妻が鈴虫を飼いたいと言う。鳴き音を聴いていると、山の別荘に来た気持ちになるとは、これぞ糟糠（そ

翌朝、眼鏡もかけずに新聞の折り込みチラシを見て「すず虫を売っている!!」と。広告まで出して鈴虫



コロナスの民間に伝えられたサビエルの顔

を売るとは珍しいと思つて見ると、みず虫の広告である。鈴虫で別荘に行った気持ちになつてくれるのだから、多少虫の居所が悪くても怒るわけにもいれない。見聞はなるべく眼鏡をかけて正確にと、お願いした。

さて「見聞」と言えば、ヨーロッパの人々が東洋について初めて知ったのは、マルコ・ポーロが一二九八年に書いた「東方見聞録」と言われる。

日本は金銀豊富な黄金国と紹介されているが、彼は日本に来たわけでもなく、誇大広告の感がある。しかし、これを読ん

だコロンブスが黄金国を目指して航海に出て、アメリカ大陸を発見したのだから、それなりの功績があった。しかし、当時の本当の日本をヨーロッパの人々に知らせたのはサビエルである。

来日して三カ月近くすぎた一五四九年十一月五日付で、サビエルは五通の手紙を出している。

その中の一通はサビエル書簡集によると、実に三十六ヶに及び、日本について詳しく書いている。

「日本人を評価」ことによつて知りえた限りでは、この国の人々は今までに発見された国民の中で最高であり、日本人より優れた人々は異教徒の間では見つけられないでしょう。

「私たちが交際することによって知りえた限りでは、この国の人々は今までに発見された国民の中で最高であり、日本人より優れた人々は異教徒の間では見つけられないでしょう。」

「日本の日本は？」書簡を読みながら、今の日本を見たらサビエルはどんな印象を持っただろうかと想像する。

物質的には欧米に劣らず、極めて豊かになった。しかし、日本見

大部分の人々は貧しいのですが、貧しいことを不名誉とは思っていません。

このほか大交礼儀正しいこと、賭博は一切しないこと、一夫一妻制で、盗人は少ないなど書いている。

さらに食生活について「食事は少量、飲酒の節度はいく分ゆるやかで、米からの酒を飲んでい

たると目立つ。こんな状態の日本の将来に不安を感じるのは私だけではない。



サビエルの日本での足跡

親しみやすく、善良で、悪意がありません。驚くほど名誉心の強い人々で、他の何よりも名誉を重んじます。

物質的には欧米に劣らず、極めて豊かになった。しかし、日本見

博をし、消費者金融が

（山口放送元取締役ラジオ局長）